

埼玉県地域医療構想 病床機能報告データ等を用いた医療提供体制分析

埼玉県 保健医療部 保健医療政策課

目的

客観的な基準により地域の医療機能の現状を分析し、各医療機関が、自機関の立ち位置を確認し、地域で医療機能の分化と連携を議論するための「目安」を提供する。

<病床機能報告の4機能>

- **主観的**な区分
—各医療機関の自主的な選択

異なる

<地域医療構想の4機能>

- **客観的**な区分
—医療資源投入量に応じた区分

【地域医療構想調整会議の委員からの意見】

- ・医療機能の捉え方は各病院によって差がある
- ・報告上の機能と実際の機能が異なり、構想に関する議論が困難。
- ・本来は国で客観的な基準を示すべきであるが、県独自でも検討するべき。

各医療機関の自主的な判断により報告された内容を尊重しつつ、別の観点として、算定している入院料や具体的な医療提供状況から客観的な基準を作成し、「4機能」が指す具体的な内容について、共通認識を持ちやすくする。

なお、基準は「絶対の閾値」ではなく、ある程度の幅をもたせて考えることが必要。

第1章 客観的指標を用いた 医療機能区分の設定

機能区分の枠組み

- 「ICU→高度急性期」「回復期リハ病棟→回復期」「療養病棟→慢性期」など、**どの医療機能と見なすが明らかな入院料の病棟**は、当該医療機能として扱う。
- 特定の医療機能と結びついていない**一般病棟・有床診療所の一般病床・地域包括ケア病棟(周産期・小児以外)**を対象に、具体的な機能の内容に応じて客観的に設定した**区分線1・区分線2**によって、高度急性期/急性期/回復期を区分する。
- 特殊性の強い周産期・小児・緩和ケアは切り分けて考える。

4 機能	大区分						
	主に成人			周産期	小児	緩和ケア	
高度急性期	救命救急 ICU SCU HCU				MFICU NICU GCU	PICU 小児入院医療 管理料1	
急性期					産科の一般病棟 産科の有床診療所	小児入院医療管理料2,3 小児科の一般病棟7:1	緩和ケア病棟 (放射線治療あり)
回復期	回復期 リハビリ病棟			小児入院医療管理料4,5 小児科の一般病棟7:1以外 小児科の有床診療所			
慢性期	療養病棟 特殊疾患病棟 障害者施設等				緩和ケア病棟 (放射線治療なし)		

↑
切り分け

具体的な機能に応じて区分線を引く

機能区分の基準の観点

- ① 病床機能報告のうち、主に「具体的な医療の内容に関する項目」のデータの中から、**外科的治療・内科的治療・全身管理等の幅広い診療内容を加味して基準を構成。**
- ② 区分線1のしきい値は、**救命救急入院料やICUの大半が、高度急性期に区分される程度とする。**
- ③ 区分線2のしきい値は、**一般病棟7:1の大半が、高度急性期・急性期に区分される程度とする。**
- ④ 区分線1・2を設定した結果、**高度急性期・急性期・回復期の1日あたり入院患者数が、「埼玉県地域医療構想における現在(2013年)の需要推計」との間に大きな齟齬がないか確認する。**

ただし、実際には各病棟にはさまざまな病期の患者が混在する中で、病棟単位での集計結果に応じて区分するため、ある病棟が、わずかな機能の差によって、「急性期の病棟」に区分されたり「回復期の病棟」に区分されたりし、それに応じて「急性期の病棟の病床数」も大きく変わる。

区分線には「絶対の閾値」があるわけではなく、ある程度の幅をもたせて考えることが必要。

高度急性期・急性期の区分(区分線1)の指標

○救命救急やICU等において、特に多く提供されている医療

- A : 【手術】全身麻酔下手術
- B : 【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- C : 【がん】悪性腫瘍手術
- D : 【脳卒中】超急性期脳卒中加算
- E : 【脳卒中】脳血管内手術
- F : 【心血管疾患】経皮的冠動脈形成術(※)
- G : 【救急】救急搬送診療料
- H : 【救急】救急医療に係る諸項目(☆)
- I : 【救急】重症患者への対応に係る諸項目(☆)
- J : 【全身管理】全身管理への対応に係る諸項目(☆)

※…診療報酬上の入院料ではなくデータから特定がしにくいCCUへの置き換えができなかったこと、経皮的冠動脈形成術の算定が一般病棟7:1よりもICU等に集中していることによる。

☆…病床機能報告のデータ項目のうち、救命救急やICU等で算定が集中しているものに限定。

→これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数を指標に用い、しきい値を設定。

高度急性期・急性期の区分(区分線1)のしきい値

○A～Jのいずれかを満たす病棟の割合は、救命救急・ICU等で92.5%(全県)

区分線1で高度急性期に分類する要件		しきい値		該当する病棟の割合				
		稼働病床1床当たりの月間の回数	40床の病棟に換算した場合	救命・ICU	一般病棟 7:1 (※)	一般病棟 7:1以外 (※)	有床診の一般病床 (※)	地域包括ケア病棟
手術	A 全身麻酔下手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上	40.0%	1.7%	0.0%	2.6%	0.0%
	B 胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	17.5%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%
がん	C 悪性腫瘍手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	22.5%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%
脳卒中	D 超急性期脳卒中加算	あり	あり	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	算定不可
	E 脳血管内手術	あり	あり	21.3%	1.7%	0.6%	0.0%	0.0%
心血管疾患	F 経皮的冠動脈形成術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	27.5%	2.8%	1.7%	1.3%	0.0%
救急	G 救急搬送診療料	あり	あり	7.5%	1.7%	0.0%	0.0%	算定不可
	H 救急医療に係る諸項目(下記の合計) ・救命のための気管内挿管 ・体表面・食道ペーシング法 ・非開胸的心マッサージ	0.2回/月・床以上	8回/月以上	66.3%	3.1%	2.8%	2.6%	0.0%
	I 重症患者への対応に係る諸項目(下記の合計) ・観血的肺動脈圧測定 ・持続緩徐式血液濾過 ・大動脈バルーンパンピング法 ・経皮的心肺補助法 ・人工心臓	0.2回/月・床以上	8回/月以上	48.8%	2.3%	0.6%	0.0%	0.0%
全身管理	J 全身管理への対応に係る諸項目(下記の合計) ・観血的動脈圧測定(1時間超) ・ドレーン法	8.0回/月・床以上	320回/月以上	46.3%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%
上記A～Jのうち1つ以上を満たす				92.5%	16.8%	4.0%	6.4%	0.0%

※…主たる診療科が産科・産婦人科・小児科・小児外科であるものを除く。

平成28年度病床機能報告のデータから作成

急性期・回復期の区分(区分線2)の指標

○一般病棟7:1において多く提供されている医療

- K:【手術】手術
- L:【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- M:【がん】放射線治療
- N:【がん】化学療法
- O:【救急】救急搬送による予定外の入院

○一般病棟や地域包括ケア病棟で共通して用いられている指標

- P:【重症度、医療・看護必要度】
基準(「A得点2点以上かつB得点3点以上」「A得点3点以上」「C得点1点以上」)を満たす患者割合

→これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数等を指標に用い、しきい値を設定。

急性期・回復期の区分(区分線2)のしきい値

○K～Pのいずれかを満たす病棟・有床診療所の割合は、産科・小児科を除く一般病棟7:1で76.4%、10:1で49.1%、有床診で25.6%。(全県)

区分線2で急性期に分類する要件			しきい値		該当する病棟の割合				
			稼働病床1床当たりの月間の回数	40床の病棟に換算した場合	一般病棟 7:1 (※)	一般病棟 10:1 (※)	その他 一般病棟 (※)	有床診の 一般病床 (※)	地域包括 ケア病棟
手術	K	手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上	10.2%	2.7%	6.0%	21.8%	0.0%
	L	胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.1回/月・床以上	4回/月以上	17.6%	10.0%	0.0%	1.3%	0.0%
がん	M	放射線治療(レセプト枚数)	0.1回/枚・床以上	4枚/月以上	9.7%	2.7%	0.0%	0.0%	算定不可
	N	化学療法	1.0回/月・床以上	40回/月以上	17.3%	0.9%	1.5%	2.6%	0.0%
救急	O	予定外の救急医療入院の人数	10人/年・床以上	33.3人/月以上	17.3%	13.6%	6.0%	0.0%	0.0%
重症度等	P	一般病棟用の重症度、医療・看護必要度を満たす患者割合	25%以上	25%以上	57.1%	38.2%	3.0%	0.0%	7.7%
上記K～Pのうち1つ以上を満たす					76.4%	49.1%	16.4%	25.6%	7.7%

※…主たる診療科が産科・産婦人科・小児科・小児外科であるものを除く。

平成28年度病床機能報告のデータから作成

機能区分の適用結果(平成29年度 秩父圏域)

大区分	入院料・診療科	4機能区分	埼玉県計			秩父圏域			備考	
			該当病棟数	基準該当病床数	病床稼働率	該当病棟数	基準該当病床数	病床稼働率		
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	87病棟	835床	65.7%	0病棟	0床		区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分	
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	67病棟	2,508床	74.1%	0病棟	0床			
		急性期	343病棟	14,764床	79.8%	5病棟	219床	80.7%		
		回復期	262病棟	9,746床	67.8%	6病棟	173床	81.7%		
	回復期リハビリ病棟	回復期	74病棟	3,448床	90.0%	1病棟	40床	90.5%		
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	59病棟	2,839床	86.5%	1病棟	60床	9.0%		
	医療療養病床	慢性期	172病棟	8,067床	85.8%	6病棟	262床	79.4%		
介護療養病床	慢性期	9病棟	464床	79.8%	0病棟	0床				
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	20病棟	342床	60.6%	0病棟	0床			
	産科の一般病床	急性期	93病棟	2,260床	65.8%	0病棟	0床			
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	11病棟	336床	54.5%	0病棟	0床		医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分	
		急性期	16病棟	533床	57.9%	0病棟	0床			
		回復期	2病棟	47床	54.4%	0病棟	0床			
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	5病棟	114床	67.0%	0病棟	0床		放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする	
		慢性期	7病棟	131床	62.7%	0病棟	0床			

4機能区分	埼玉県計			秩父圏域			各医療機関が報告した病床数(H29病床機能報告)	2025年の必要病床数(地域医療構想)
	該当病棟数	基準該当病床数	病床稼働率	該当病棟数	基準該当病床数	病床稼働率		
高度急性期	185病棟	4,021床	69.6%	0病棟	0床		0床	31床
急性期	457病棟	17,671床	77.3%	5病棟	219床	80.7%	352床	174床
回復期	338病棟	13,241床	73.5%	7病棟	213床	83.4%	109床	181床
慢性期	247病棟	11,501床	85.5%	7病棟	322床	66.3%	352床	214床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床	35病棟	512床	20.0%	0病棟	0床		—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	—	—	—	17床	—
合計等	1,262病棟	46,946床	76.9%	19病棟	754床	75.3%	830床	600床

注:「合計等」欄の許可病床数の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2とが突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床がある。

(計:76床 高度急性期:0床 急性期:29床 回復期:0床 慢性期:30床 未報告:17床)

(参考)各医療機関の報告上の機能

機能区分の適用結果(平成28年度 秩父圏域)

大区分	入院料・診療科	4機能区分	埼玉県計			秩父圏域			備考
			該当病棟数	許可病床数	病床稼働率	該当病棟数	許可病床数	病床稼働率	
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	80病棟	733床	61.9%	0病棟	0床		
	一般病棟・ 地域包括ケア病床等	高度急性期	71病棟	2,852床	79.1%	1病棟	52床	96.4%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	292病棟	12,713床	78.1%	5病棟	186床	77.5%	
		回復期	257病棟	9,968床	65.3%	4病棟	140床	86.0%	
	回復期リハビリ病棟	回復期	60病棟	2,737床	86.5%	1病棟	40床	83.6%	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	44病棟	2,027床	89.5%	1病棟	60床	88.4%	
	医療療養病床	慢性期	147病棟	6,837床	88.9%	7病棟	292床	76.6%	
介護療養病床	慢性期	12病棟	587床	87.2%	0病棟	0床			
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	26病棟	581床	96.2%	0病棟	0床		
	産科の一般病床	急性期	61病棟	1,550床	67.9%	0病棟	0床		
小児	小児入院管理料・ 小児科の一般病棟等	高度急性期	3病棟	116床	79.4%	0病棟	0床	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分	
		急性期	19病棟	723床	46.7%	0病棟	0床		
		回復期	3病棟	87床	70.5%	0病棟	0床		
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	4病棟	97床	63.6%	0病棟	0床	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする	
		慢性期	6病棟	99床	65.3%	0病棟	0床		

4機能ごとに集計

4機能区分	埼玉県計			秩父圏域			各医療機関が報告した病床数 (H28病床機能報告)	2025年の必要病床数 (地域医療構想)
	該当病棟数	許可病床数	病床稼働率	該当病棟数	許可病床数	病床稼働率		
高度急性期 計	180病棟	4,282床	78.5%	1病棟	52床	96.4%	0床	31床
急性期 計	376病棟	15,083床	75.5%	5病棟	186床	77.5%	345床	174床
回復期 計	320病棟	12,792床	69.9%	5病棟	180床	85.5%	109床	181床
慢性期 計	209病棟	9,550床	88.7%	8病棟	352床	78.6%	352床	214床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床 休棟・病床機能報告に無回答の病床	27病棟	318床	14.4%	1病棟	14床	61.8%	—	—
合計等	1,112病棟	42,025床	76.6%	20病棟	784床	80.8%	830床	600床

注:「合計等」欄の許可病床数(埼玉県計=42025床、秩父圏域=784床)の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2とが突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床がある(埼玉県計=8347床、秩父圏域=46床)。

(参考) 各医療機関の報告上の機能

(高度急性期: 0床 急性期: 29床 回復期: 0床 慢性期: 0床 未報告: 17床)

第2章 回復期の病床の類型化・具体化

回復期の類型化・具体化

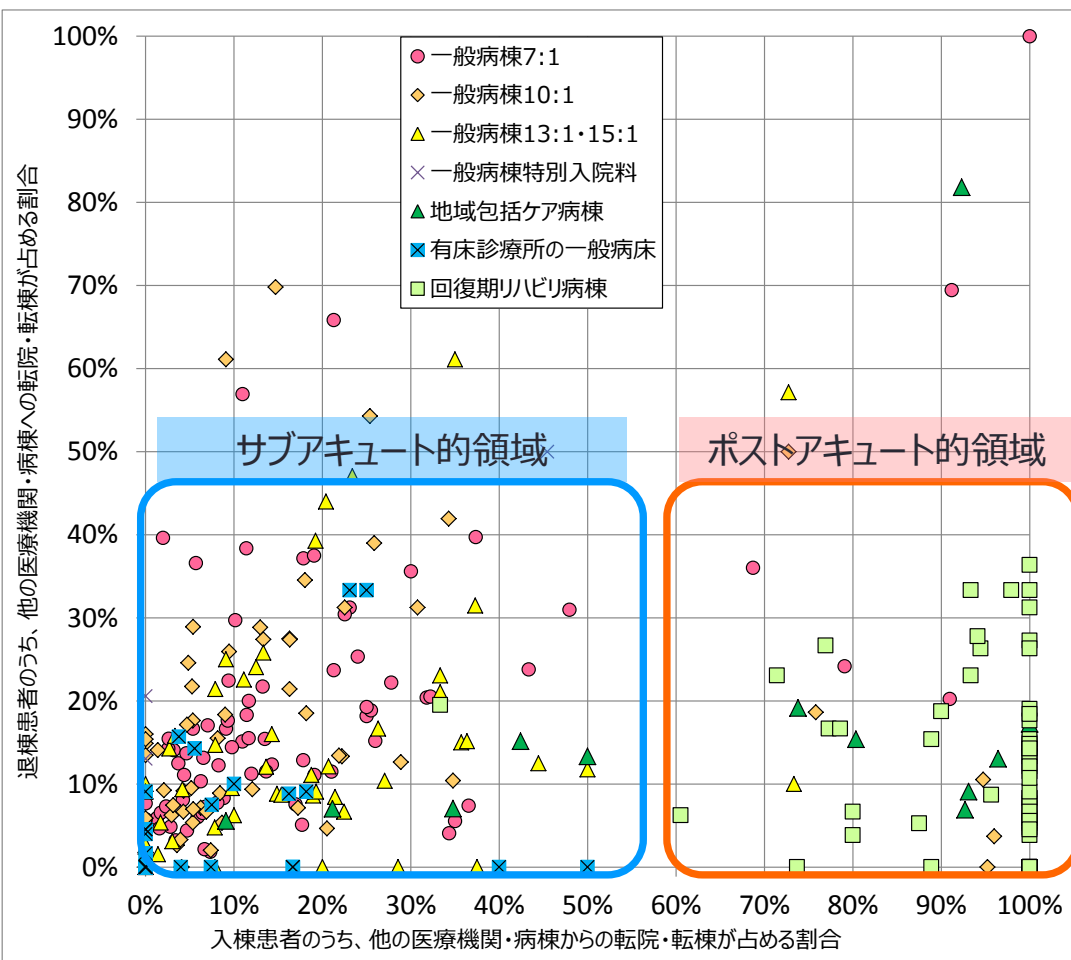
- 高度急性期と急性期の区分(区分線1)、急性期と回復期の区分(区分線2)は、急性期的な機能に関する基準設定

⇒ 多様な形態を含むと考えられる回復期の病棟について、さらに診療科や入退棟の流れ等に応じた、更なる機能の類型化・具体化

4 機能	大区分					
	主に成人		周産期	小児		緩和ケア
高度急性期	救命救急 ICU SCU HCU	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 一般病棟 ↑ 有床診療所の一般病床 ↑ 地域包括ケア病棟 </div>	MFICU NICU GCU	PICU	小児入院医療管理料1	
急性期			産科の一般病棟 産科の有床診療所	小児入院医療管理料2,3 小児科の一般病棟7:1		緩和ケア病棟 (放射線治療あり)
回復期	回復期 リハビリ病棟			小児入院医療管理料4,5 小児科の一般病棟7:1以外 小児科の有床診療所		
慢性期	療養病棟 特殊疾患病棟 障害者施設等					緩和ケア病棟 (放射線治療なし)

どのようなバリエーションがあるか

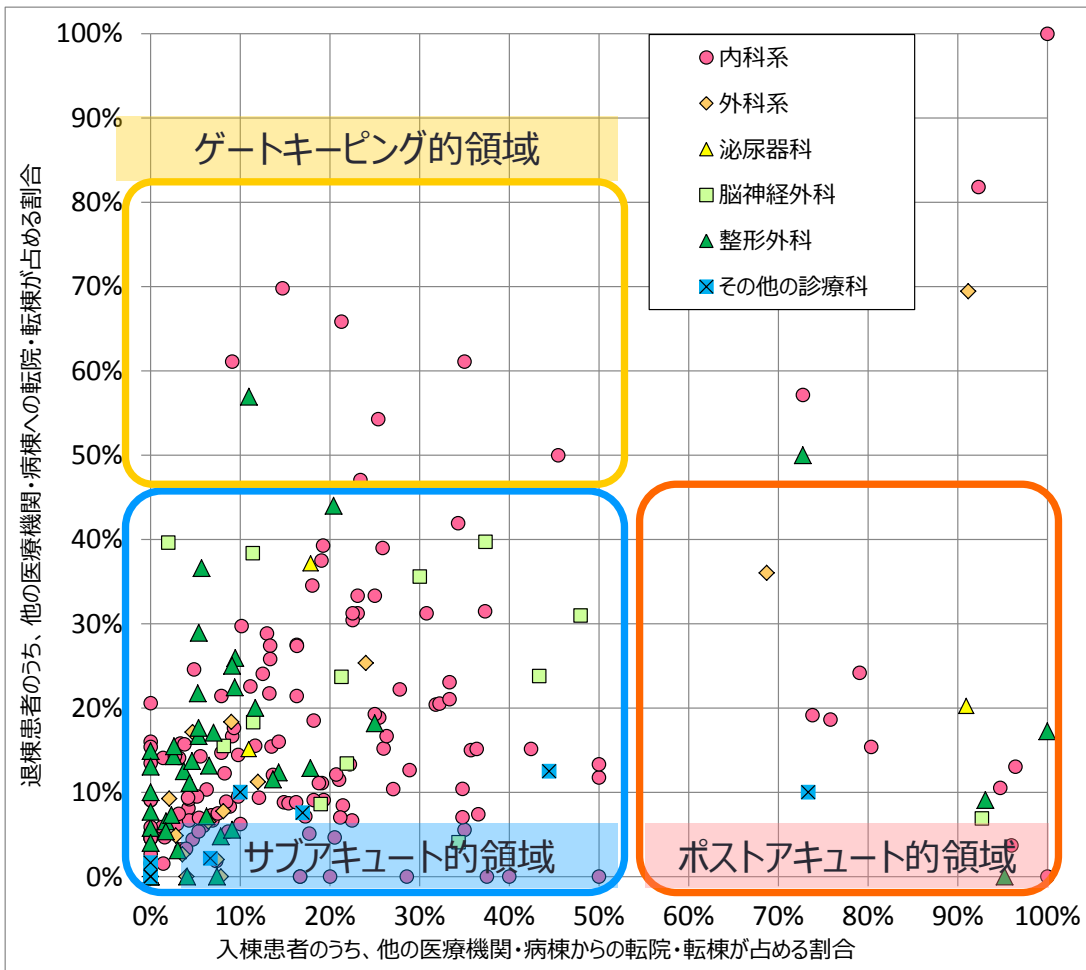
回復期の病棟における入退棟の流れ(入院料別、小児科除く)(全県)



平成28年度病床機能報告のデータから作成

- 全般に、医療機関以外(家庭・施設等)への退院が多い
- 回復期リハビリ病棟は、他の病院・病棟からの転院・転棟が多い
⇒ ポストアキュートの機能
- 一般病棟・有床診の病床は、医療機関以外(家庭・施設等)からの入院が多い
⇒ サブアキュートの機能
- 地域包括ケア病棟は、ポストアキュートの機能からサブアキュートの機能にまたがる

回復期の病棟における入退棟の流れ (診療科別、回復期リハビリ病棟・小児科除く)(全県)



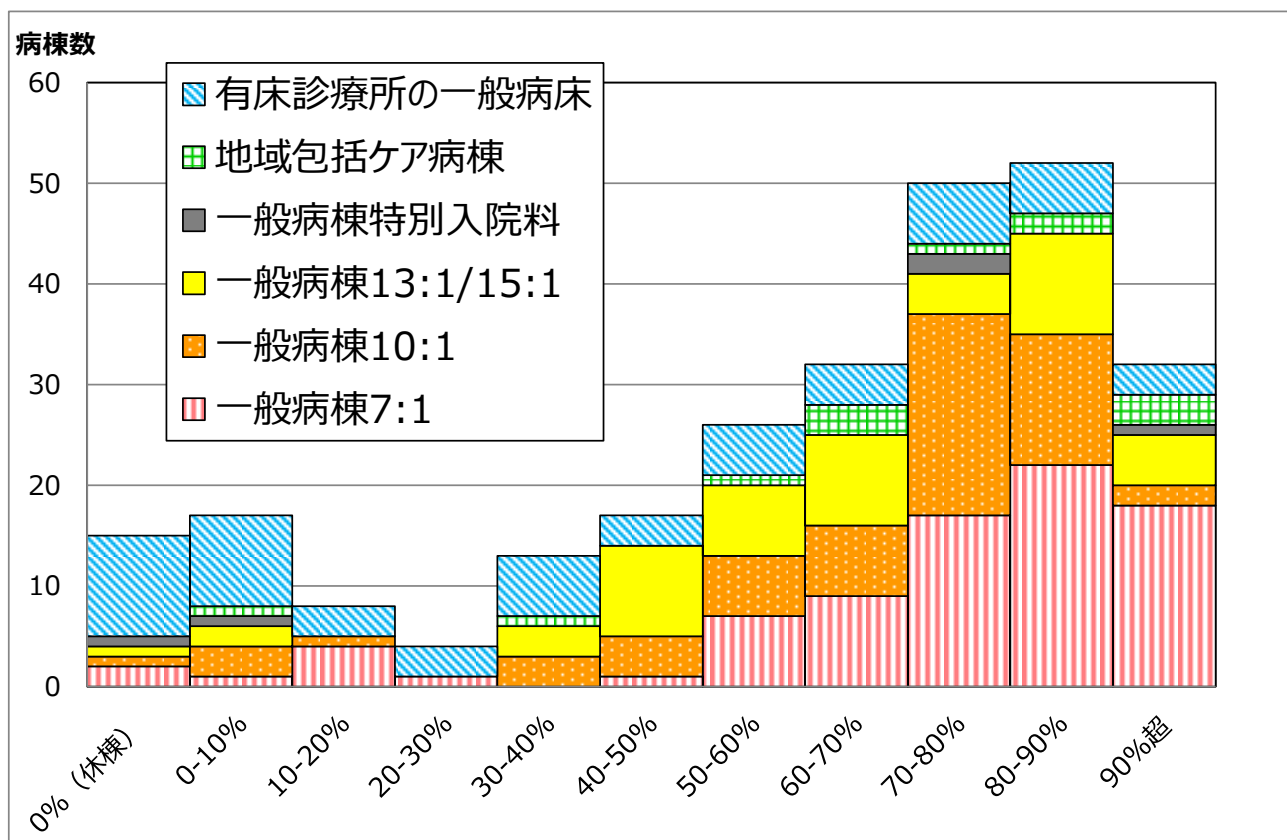
平成28年度病床機能報告のデータから作成

- 内科系・整形外科・脳神経外科の病棟が大半を占める
- 整形外科・脳神経外科の病棟の大半は、家庭・施設等からの入院、家庭・施設等への退院が多い
⇒ サブアキュートの機能
- 内科系の病棟は、サブアキュートの機能の病棟が多いが、他の病院・病棟からの入院・入棟が多い(ポストアキュートの機能)病棟や、他の病院・病棟への転院・退棟が多い(ゲートキーピング的機能)病棟もみられる

回復期の病棟の稼働率の分布

(入院料別、回復期リハビリ病棟・小児科除く)(全県)

- 病棟数ベースでは稼働率70～90%にピークがあるが、70%以下の病棟・有床診も多い
- 一般病棟のうち、看護配置の少ない病棟ほど、稼働率が低い傾向にある(7:1 > 10:1 > 13:1・15:1)



第3章 圏域内の医療提供状況(別紙)

■ 検討の視点

視点1：同一入院基本料を算定している病棟間での病床利用率のばらつき

- 病棟間の病床利用率における「最大値」と「最小値」の差が大きい入院基本料を検討。
- 病床利用率が低い値を取らざるを得ない病棟機能に関する検討。
- 病床利用率の観点から、構想区域として求められる新たな病床機能の検討。

視点2：幅広い手術を提供している病棟の状況

- 手術、全身麻酔を提供している一般病棟10:1、13対1、15対1、有床診療所一般病床が果たしている医療機能に関する検討。
- 手術を提供していない一般病棟10:1、13対1、15対1、有床診療所一般病床における機能強化の方向性に関する検討。

視点3 - 1：地域におけるがん治療を提供している病棟の状況

- 構想区域内において悪性腫瘍手術、放射線治療、化学療法を提供している病棟の有無に関する検討
- 構想区域内において悪性腫瘍手術実施率の低い病棟の役割に関する検討。
- 一般病棟7対1以外で化学療法を提供する病棟の状況に関する検討。

■ 検討の視点(つづき)

視点3 - 2 : 地域における脳卒中の治療を提供している病棟の状況

- 構想区域内において超急性期脳卒中加算、脳血管内手術を提供している病棟の有無に関する検討
- 構想区域内において超急性期脳卒中加算、脳血管内手術を提供している病棟間の実施率の違いに関する検討。

視点3 - 3 : 地域における心筋梗塞の治療を提供している病棟の状況

- 構想区域内において経皮的冠動脈形成術を提供している病棟の有無に関する検討
- 構想区域内において経皮的冠動脈形成術を提供している病棟間の実施率の違いに関する検討。

視点4 : 在宅患者の緊急入院診療を提供している病棟の状況

- 構想区域内において在宅患者の緊急入院診療を提供している病棟の有無に関する検討
- 在宅患者の緊急入院診療を提供している病棟における、構想区域として求められる新たな医療機能の検討。

■ 検討の視点(つづき)

視点5：全身管理を実施している病棟の状況

- 構想区域内において継続的に全身管理を必要としている患者の療養先に関する検討（例：一般病棟13対1、15対1、地域包括ケア病棟および医療療養病棟 等）
- 地域包括ケア病棟における全身管理を必要としている患者の受け入れ状況の検討（在宅医療との連携を想定）。

視点6：疾患に応じたリハ・早期からのリハを実施している病棟の状況

- 構想区域内における、（心大血管疾患リハ）、脳血管疾患リハ、廃用症候群リハ、運動期リハ、呼吸器リハ、がん患者リハおよび認知症患者リハを提供している病棟に関する検討。
- 構想区域として求められる、一般病棟10対1、一般病棟13対1、15対1および地域包括ケア病棟等におけるリハビリテーションの提供に関する検討。

參考資料

病床機能報告のデータセット

- データ分析では、病床機能報告のうち、主に病棟単位のデータを使用
- データは「報告様式1-③病棟票」と「報告様式2-②病棟票」とに分かれるため、両者を突合してデータセットを作成

A: 報告様式1-③

- 4機能の選択
- 病床数
- 算定入院料
- 病棟部門の職員数
- 入退棟の状況
- 分娩件数 など

※有床診療所は「報告様式1」



B: 報告様式2-②

- 入院料の算定回数
- 手術の実施状況
- がん・脳卒中・心筋梗塞等への治療状況
- 重症患者への対応状況
- 救急医療の実施状況
- 在宅復帰への支援状況
- 全身管理の状況
- 疾患別リハビリの実施状況 など

機能区分の適用結果(平成29年度 全県)

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	基準該当 病床数	病床稼働率	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	87病棟	835床	65.7%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・ 地域包括ケア病床等	高度急性期	67病棟	2,508床	74.1%	
		急性期	343病棟	14,764床	79.8%	
		回復期	262病棟	9,746床	67.8%	
	回復期リハビリ病棟	回復期	74病棟	3,448床	90.0%	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	59病棟	2,839床	86.5%	
	医療療養病床	慢性期	172病棟	8,067床	85.8%	
介護療養病床	慢性期	9病棟	464床	79.8%		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	20病棟	342床	60.6%	
	産科の一般病床	急性期	93病棟	2,260床	65.8%	
小児	小児入院管理料・小児科の 一般病棟等	高度急性期	11病棟	336床	54.5%	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	16病棟	533床	57.9%	
		回復期	2病棟	47床	54.4%	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	5病棟	114床	67.0%	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	7病棟	131床	62.7%	

4機能区分	該当病棟数	基準該当 病床数	病床稼働率	各医療機関が 報告した病床数 (H29病床機能報告)	2025年の 必要病床数 (地域医療構想)
高度急性期 計	185病棟	4,021床	69.6%	6,365床	5,528床
急性期 計	457病棟	17,671床	77.3%	24,702床	17,954床
回復期 計	338病棟	13,241床	73.5%	4,830床	16,717床
慢性期 計	247病棟	11,501床	85.5%	13,013床	14,011床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床	35病棟	512床	20.0%	—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	1,772床	—
合計等	1,262病棟	46,946床	76.9%	50,682床	54,210床

注：病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2とが突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床が3,736床ある。

機能区分の適用結果(平成28年度 全県)

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	許可病床数	病床稼働率	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	80病棟	733床	61.9%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・ 地域包括ケア病床等	高度急性期	71病棟	2,852床	79.1%	
		急性期	292病棟	12,713床	78.1%	
		回復期	257病棟	9,968床	65.3%	
	回復期リハビリ病棟	回復期	60病棟	2,737床	86.5%	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	44病棟	2,027床	89.5%	
	医療療養病床	慢性期	147病棟	6,837床	88.9%	
介護療養病床	慢性期	12病棟	587床	87.2%		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	26病棟	581床	96.2%	
	産科の一般病床	急性期	61病棟	1,550床	67.9%	
小児	小児入院管理料・小児科の 一般病棟等	高度急性期	3病棟	116床	79.4%	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	19病棟	723床	46.7%	
		回復期	3病棟	87床	70.5%	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	4病棟	97床	63.6%	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	6病棟	99床	65.3%	

4機能ごとに集計

4機能区分	該当病棟数	許可病床数	病床稼働率	平成28年度病床機能報告において各医療機関が報告した病床数	地域医療構想における2025年の必要病床数
高度急性期 計	180病棟	4,282床	78.5%	6,707床	5,528床
急性期 計	376病棟	15,083床	75.5%	24,118床	17,954床
回復期 計	320病棟	12,792床	69.9%	4,437床	16,717床
慢性期 計	209病棟	9,550床	88.7%	12,965床	14,011床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床	27病棟	318床	14.4%	—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	2,145床	—
合計等	1,112病棟	42,025床	76.6%	50,372床	54,210床

注：表の42,025床の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2とが突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床が8,347床ある。